

# 日本アルコール関連問題学会ニュースレター No.6

2007年4月発行

## 第29回日本アルコール関連問題学会・高崎大会のご紹介

第29回日本アルコール関連問題学会・高崎大会  
大会長 竹村道夫(赤城高原ホスピタル院長)  
高崎大会オフィシャルサイト：<http://aperto-g.jp/arukan29/>

第29回日本アルコール関連問題学会は、平成19年6月22日(金)23日(土)の両日、群馬県高崎駅ビルのホテルメトロポリタン高崎(東京駅から60分)で開催されます。

日本アルコール関連問題学会会員の職種は、精神科医、内科医、産業医など医師のほか、保健師、臨床心理士、ソーシャルワーカー、看護師などのコメディカル、さらに相談室やリハビリ施設のスタッフ、自助グループ関係者など多彩です。高崎大会では、特に多職種の支援者の力を結集するという点を意識して、メインテーマを「点と線、つなぎ広げる支援の輪」とし、専門家から、患者さんやご家族、一般市民など全ての参加者が関心を持てるようなさまざまなテーマのプログラムを用意しました。

プログラム内容や時間割の詳細については、高崎大会オフィシャルサイトをご覧くださいと思いますが、概略は以下の通りです。記念講演は22日午後、特別講演は23日午後です。そのほか、特別企画・回復方法論(22日午前)、ポスターセッション(22日午後)、分科会(23日午前)、懇親会(22日夕)、ランチョンセミナー(22日、23日昼)などが予定されています。

分科会(23日午前)としては、以下の7セッションが同時並行で行なわれます。今、臨床現場で何が起きているか-産業医および各科医師との連携-、飲酒運転、未成年者のアルコール・薬物乱用問題、在日外国人のアルコール関連問題への支援、アルコール関連問題と生活保護、地域精神保健とアルコール問題、アルコール関連問題と家族。

なお、医師向けの情報として、高崎大会参加者には、日本精神神経学会専門医更新単位10~30ポイントが認められます(日本精神神経学会、専門医ポイントカードの提示が必要です)。

記念講演(22日午後)としては群馬大学大学院医学系研究科脳神経精神行動学教授・三國雅彦先生が「アルコール乱用・依存症とうつ病へのなりやすさ」について講演をされます。演者は、うつ病の病態研究の最先端に詳しい専門家です。アルコール関連障害治療に役立つアイデアが得られることでしょう。

特別講演(23日午後)としては、Mayo Clinic College of Medicine 精神科名誉教授、丸田俊彦先生が、「アメリカの子犬は甘えるか?— 間主観性理論から見た物質使用障害の治療 —」と題して講演をされます。演者は現代精神分析の最高峰ともいえる間主観性理論の専門家ですが、物質使用障害治療にも深い関心をよせています。なお、この講演は公開講演となっており、学会閉会後に行なわれ参加無料です。

分科会では、今、臨床現場で何が起きているか-産業医および各科医師との連携- というテーマで、精神科医側から2名、内科医側から2名が話題提供をします。この分科会は、日本医師会認定産業医研修単位対象(生涯研修、3ポイント)になっています。

22日のランチョンセミナーでは、「アルコール依存症の薬物治療」と題して、国立病院機構久里浜アルコール症センター、精神科医長の宮川朋大先生が講演をされます。

23日のランチョンセミナーでは、「アルコールと生活習慣病」のテーマで、慶應義塾大学名誉教授・三井住友海上きらめき生命健康管理センター所長の石井裕正先生が講演をされます。

23日午前には、分科会と並行して2つの基礎講座があります。基礎講座1は、「アルコール依存症の家族システム」で、講師は遠藤嗜癡問題相談室室長の遠藤優子先生です。基礎講座2は、「アルコール性臓器障害」で、講師は、利根中央病院(群馬県)の内科医長、大塚敏之先生です。アルコールによる肝障害、消化器系障害を初めとする数多くの臓器障害の解説があります。

このほか、22日午前中には、特別企画「回復方法論-2つの例」として、アメリカのセレンティーパークというリハビリテーション施設と名古屋の「仲間の会作業所」とにおける取り組みの紹介があります。この時間帯には、学会本部の各種委員会や理事会、評議委員会などがありますが、これらに関係しない学会参加者は、この特別企画に出席されると良いでしょう。23日午前には、分科会と並行して特別企画「アディクションフォーラム・古馬の国から - ターニングポイントから回復へ - 」というテーマで、群馬

県内の嗜癮関連問題自助グループの紹介、当事者の体験談発表があります。なお、これら特別企画には、多くの当事者、ご家族が参加されるため、特別企画だけに参加される方には、割引料金システム(各特別企画 500 円)があります。

また学会閉会直後、希望者には、高崎大会事務局である赤城高原ホスピタルへの送迎つき見学オプション・ツアーがあります(無料)。ただし特別講演(無料)と同じ時間帯の

ため、見学ツアー参加者は特別講演には出席できません。

これまでの地方大会では、多くのコメディカルのほか、学生、回復者や体験者、家族などが参加しています。学会員でなくても、当日会員として参加可能です。冒頭にある高崎大会オフィシャルサイトからインターネットによる参加申し込みが可能です。是非、多くの方に、高崎大会に参加していただきたいと思います。

## 各ブロック報告

### 北海道ブロック

アルコール保健医療と地域ネットワーク研究会  
平成 18 年度 第 14 回学術研修会  
平成 18 年 10 月 21 日(土)～10 月 22 日(日)  
苫小牧プリンスホテル  
参加人員 約 101 名  
第 14 回学術研修会テーマ「・・・だからやめられない」  
第 1 日目 10 月 21 日(土)  
基調講演  
アルコール医療から学んだこと「障害」と「阻害」  
講師 川村敏明 浦河赤十字病院  
基礎講座  
講師 池田官司 札幌医科大学医学部神経精神科  
黒田浩昭 旭山病院  
アルコール依存症についての基本的な事柄を学びましょう。  
分科会 1 「関わりと感情」 自己洞察・陰性感情  
司会 吉野亨一 札幌医科大学保健医療学部看護学科  
話題提供者 如澤 学 道央佐藤病院  
土橋浩司 植苗病院  
岩代 純 石橋病院  
分科会 2 「連携と予防」 SHG・地域医療・医療過疎  
司会 林 和秀 林病院  
話題提供者 田口博康 つるい養生邑クリニック  
竹林千佳 室蘭保健所  
分科会 3 「若年」たばこ・大麻・薬物・ドラッグ・  
引きこもり・ニート  
司会 白坂智信 石橋病院  
話題提供者 塩川幸子 釧路保健所

酒井ひとみ 共同作業所それいゆ  
奥田あけみ 余市北星高校

第 2 日目 10 月 22 日(日)

シンポジウム「依存症者から得られた宝物」  
司会 白坂智信 石橋病院  
座長 山家研司 旭山病院  
シンポジスト 伊賀勝康 苫小牧勤医協病院  
岩淵誠一 植苗病院  
本瀬 恵 紋別保健所  
門脇いづみ 萌クリニック  
清水恵理 石橋病院

基礎講座・分科会の内容は募集プログラムより転記いたしました。

実行委員 加納美仁・如澤 学・肥高昌子  
(事務局：道央佐藤病院内)

主催者名 アルコール保健医療と地域ネットワーク研究会  
会長 齋藤利和  
後援者名 北海道・苫小牧市医師会  
北海道看護協会苫小牧支部・北海道アルコール看護研究会  
平成 18 年度第 14 回学術研修会は、看護のメンバーが企画・開催を担当いたしました。多くの参加をいただき、参加者には新たなパワーをそれぞれの現場に持ち帰っていただけたものと思います。

平成 19 年度第 15 回学術研修会は、ソーシャルワーカーのメンバーが企画・開催を担当予定です。  
旭山病院：山家研司

### 東北ブロック

日本アルコール関連問題学会仙台大会について  
昨年(平成 18 年)6 月、仙台国際センターで東北ブロック(東北アルコール関連問題研究会)が担当し、第 28 回日本アルコール関連問題学会を約 600 名の参加を得て、開催させていただきました。東北ブロックとしては、松島大会、山形大会に次ぐ、3 度目の開催であった。今回の学会では、メインテーマを、東北アルコール関連問題研究会山形大会(平成 17 年)の「できること、できないこと、まあいいか」をそのまま使わせていただいた。「賢さ」もいいか、「まあいいか！」

という、折り合いのつけ方もあるのではないかと、といった実行委員会の総意であった。

分科会を各県の事情にあわせて企画、運営することとし、全国の皆様の協力を得て、なんとか終えることができました。現在、医療機関、行政ともに東北地方のアルコール関連問題への関心は相変わらず(?)とても低く、分科会のテーマは各県の実情を反映したものであった。また、宮城県では毎年、当事者によるアディクション・フォーラムが開かれているが、今学会のサテライト・プログラムとして、無理を

承知でお願いしたところ、快く引き受けていただいた。こちらでも 150 名の参加があり盛会であった。遠くまで足を運び、参加していただいた皆様、そして当事者の皆様に心から感謝申しあげる次第である。

#### 東北アルコール関連問題研究会について

毎年、各県持ち回りで行われている東北アルコール問題研究会は、本年は岩手県の担当で開催される予定である。東北では、秋田、青森、岩手の自殺率が高く、その予防や対策が精神科医療の重要な課題になっている。しかしながら、専らうつ病との関連でのみ論じられることが多く、自殺の背景にある精神障害として、うつ病に次いで多いアルコール依存症については全く無視されているのが現状である。青森県の保健福祉センターから、アルコール個人消費量と自殺率の相関についての報告がなされたが、今年の東北アルコール関連問題研究会では、東北の関係者の間で、自殺とアルコール関連問題についての認識を共有できれば、

と考える。

#### 宮城県の状況について

昭和 56 年から、毎月欠かすことなく続けられてきた「宮城県アディクション問題研究会」が今年で 26 年を経た。この研究会を核にして、県内アディクション関連のネットワークが形成されている。一昨年（2019 年）の日本嗜癪行動学会、昨年 12 月の日本子ども虐待防止学会など、仙台で開催された学会運営は、この研究会のメンバーが中心になって行われた。

当初、関係者間のアルコール依存症の事例検討を中心に始められたが、現在はアルコール・薬物問題に限らず、過食症、病的賭博、暴力などアディクション全般を対象としている。参加者は多種多様であり、最近では保健師、福祉事務所 CW、施設職員、児童相談所相談員などに加え、教員、ヘルパーなどが増え毎回 50 名を越える参加者がある。ただ、医療関係者の参加が少ないのが悩みであり、今後の課題でもある。

東北会病院：石川 達

#### 東海ブロック

愛知県では、愛知県精神保健福祉センター・名古屋市精神保健福祉センターが、嗜癪に関する講演会や薬物問題についての講演会を援助者を対象に開催しています。その内容はアルコールや薬物問題にとどまらず、虐待・DV へと広がりを見せています。

また昨年は、アルコール関連疾患に対する内科医と精神科医との連携医療を目的に「愛知アルコール連携医療研究会」が発足。その第 1 回研究会が昨年 7 月に開催され約 100 名の医療関係者等で賑わいました。本年 4 月 12 日には刈谷豊田総合病院を会場に第 2 回研究会が開かれます。

岐阜県精神保健福祉センターでも毎年アルコール関連問題研究会を開催しています。今年 3 月、アスクの水澤都加

佐氏による講演には関係機関から当事者までが多数集まりました。断酒会では第 34 回中部ブロック大会が今年 4 月 22 日各務原市で開催されます。当日は西山クリニック（名古屋市）の猪野亜郎医師が講演をされる予定です。

昨年静岡県に静岡ダルク、静岡 NA が開設され、県内の薬物依存リハビリテーションやミーティングの拠点として活動を始めました。静岡ダルクでは今年、初めてのフォーラムを開催するべく計画中です。また、ダルクに先駆け H13 年から活動を続けている薬物依存症家族支援のための自助グループ「ドモクスしずおか」がこの 2 月、第 3 回のフォーラムを開催しました。

各務原病院：天野宏一

#### 北陸ブロック

富山県では心の健康センター、保健所でアルコール・アディクションに関する研修会・連絡会が定期的に持たれている。平成 19 年 4 月から富山市民病院では精神科ベッド削減のため入院での ARP がなくなり、外来・デイケアでの治療になる。石川県ではこころの健康センターでの研修会のほかに、アルコール依存とアディクション勉強会が 4 ヶ月

に 1 回開かれている。ケース検討や研修・学会報告、医療機関の治療の現状報告や面接、介入法について取り上げている。自助グループとの交流も行っている。福井県では県の精神保健福祉センターで依存やアディクションの相談会、関係者交流会が定期的に行われている。

ひろメンタルクリニック：奥田 宏

#### 関西ブロック

平成 19 年度 関西アルコール関連問題学会 幹事会議事録  
開催日：平成 19 年 1 月 20 日（土曜日）18:45-21:00

場 所：新阿武山クリニック

参加者：平野、麻生、辻本 S、和気、上田 T、松田、渡辺、辻本 N、橋本、藤井、池尻、上田 K、貴村、奥村、倉橋 合計 14 名

#### 議事録

1. 関西アルコール関連問題学会の報告・・・黒字 339,372 円。参加者 471 名。

・締め切り後の参加申し込みが多数だったため、会場割り

振りがぎりぎりであった。締め切り前後や当日参加は参加費を値上げするなどしてはどうか。

・基礎講座の参加が多く、評判もよかったが、休憩時間などももう少し余裕があればよかったとの意見。

2. 高齢者委員会からの報告・・・アンケート結果など冊子の発行案がでている。費用は学会のほうから出せるであろう。

3. 飲酒運転者に配布する冊子作成依頼の件・・・大阪府警と大阪府からの依頼がある。野田先生を委員長とし、辻本先生、平野先生、ASW から 2 名（ASW の委員は 2 月の運営

委員会で協議予定)による作成委員会を設置する。また、公的機関からの参加も検討する。

4. 次期大会・今後の幹事会のあり方、学会のあり方・・・奈良大会については2月より実行委員会を兼ねた形での幹事会を開催していく(植松クリニック、小杉記念病院中心)。幹事会の場所について、年間10回のうち3回ほどは大阪以外であるのが新鮮な空気も入りやすいのではないかと。さしあたって次回はひがし布施クリニックにて開催。また時間についてはあらかじめ3役で幹事会での検討内容など確認をしたいということもあり、今後は19時から21時までで決定。また、学会のあり方への意見として、会費についての話があがり奈良大会総会までにつめていく(会費額・会員規定との兼ね合い等検討)ことに。MLの活用についてはさしあたって現行のままとし、幹事のML入会を促していく。幹事会開催前の時間を利用した勉強会の開催、関西全体としての活動にとどまらず県単位での活動を通しての、地域

活発化などの意見があがり、関連問題学会の大阪大会で好評を得た基礎講座を出張講座として京都あたりでできないか、との話も。

5. 次回幹事会開催日・・・ひがし布施クリニックにて平成19年2月10日(土)19:00開始

関西アルコール関連問題学会 平成19年度役員(案)

会長 辻本土郎 (ひがし布施クリニック)

副会長 麻生克郎 (垂水病院)

副会長 安東龍雄 (安東医院)

事務局長 和気浩三 (新生会病院)

会計 渡辺孝弘 (新生会病院)

監事 川田 晃 (川田クリニック)

事務局 新生会病院 住所 大阪府和泉市松尾寺町113

0725-53-1222 FAX 0725-53-1227

和気浩三、渡辺孝弘、倉橋桃子

## 中国四国ブロック

平成18年度：第24回中四国アルコール関連問題研究会(鳥取県)

テーマ：「どうする家族・福祉・自助グループ」

開催日：平成18年9月9日(土)～10日(日) 会場：白兔会館

現地事務局：特定・特別医療法人明和会医療福祉センター 渡辺病院 山下陽三

去る平成18年9月9日・10日、現地事務局を渡辺病院に引き受けていただき、鳥取市白兔会館にて第24回中四国アルコール関連問題研究会が開催されました。医療関係者だけでなく、アルコール自助組織・その他薬物関連自助組織のメンバーの代表者など当事者の方々も多く参加され活発な意見が交わされました。中国・四国、特に山陰地区での医療の現状・社会の現状および社会資源としての自助組織の現状を垣間見ることができ、多くの収穫を得ることができました。(中四事務局 慈圭病院 堀井・大羽)

平成19年度(開催予定)第25回中四国アルコール関連問題研究会(徳島県)

テーマ：「求められる支援の輪～自ら問う援助の質～」

日時：平成19年9月8日(土)～9日(日)

現地事務局：医療法人あいさと会藍里病院 吉田清次

『9月8,9日の第25回 中四国アルコール関連問題研究会を初めて徳島で開催することになり、県内で実行委員会を結成して準備を進めています。実行委員会は大学病院、県立病院、県内の5つの私立病院、県精神保健センターと個人的参加のOT、保健師で構成して、昨年12月、今年1,2月と集まりました。テーマを「求められる支援の輪～自ら問う援助の質～」と決め、現在はシンポジストの依頼と一般演題の募集の段階に入っています。初めてのことで前回開催の渡辺病院や事務局の方に教えていただきながら、進めています。今後も実行委で議論しながら、開催を実現していきます。同時にこの際、アルコール関連問題についての徳島の現状をつかんで、これから発展させるきっかけにしたいと考えています。県内で出来るだけ多くの方に参加してもらえるように広報活動をしていくつもりです。県外からの参加を是非ともお願いしたいと思っています。』よろしく申し上げます。(吉田 記)

堀井 茂男 HORII Shigeo 慈圭病院

〒702-8508 岡山市浦安本町100-2

TEL.086(262)1191 Fax.086(262)4448

Mail Address: [s.horii@zikei.or.jp](mailto:s.horii@zikei.or.jp)

病院ホームページ <http://www.zikei.or.jp>

## 九州ブロック

九州アルコール関連問題学会の報告

九州アルコール関連問題学会は、前回の熊本県大会から早3順目に入りました。第18回大会は、「アルコール関連問題再考」をテーマにして菊池有働病院の南龍一先生を大会会長に平成18年3月3日、4日の両日、熊本県民ホールで行なわれました。他のアルコール関連の学会と開催日程が近く参加者数の減少が心配されておりましたが、例年通り400名近い参加者があり、盛況のうちに開催されました。各地域で常に新しい話題も取り入れて分科会を作ったり、

新しい人材を発掘するなどの努力も見逃せません。次回の第19回大会は北九州市の担当で、平成19年3月2日、3日の両日、八幡厚生病院齋藤雅先生を大会会長に、北九州国際会議場で開催されます。「依存から自立へ～回復への道のり～」が大会テーマとなっており、3月3日には公開講座として鈴木健二先生が「アルコール問題と家族」の題でご講演の予定です。多数のご参加をお待ちしております。

肥前精神医療センター：杠 岳文

